

小墓古墳(おばこふん)

杣之内町 古墳時代後期

長さ85m以上の前方後円墳です。古墳のまわりには濠の跡の地割りが残っています。発掘調査により、幅12~13m、深さ2.8mの濠が埋まっているのが見つかりました。濠の底からは各種の埴輪や木製品が大量に出土しました。古墳のまわりに並んでいた埴輪や木製品が、濠の中に転がり落ちたものです。

埴輪には動物や人物、家などさまざまな種類のものがありました。また、古墳のまわりに柱を立て、笠のような形をした木製品をのせていたようです。豪華に飾り立てられた古墳は、被葬者(ひそうしゃ)の力を示すための舞台でもありました。



小墓古墳出土 盾持ち人物埴輪



小墓古墳の遺物出土状況



豊田トンド山古墳の横穴式石室



横穴式石室の陰影図

豊田トンド山古墳(とよだ とんどやまこふん)

豊田町 古墳時代終末期

石上・豊田(いそのかみ・とよだ)古墳群の南端に位置します。石上神宮(いそのかみじんぐう)や布留遺跡を見下ろす山頂部に築かれた直径約35mの円墳で、発掘調査で未知の横穴式石室が見つかりました。見つかった横穴式石室は長さ約9.4mの両袖式(りょうそでしき)石室で、天井石と壁の一部の石材は失われていたが、最大で一辺の長さ約3mに及ぶ巨石を積み上げた大型の石室です。玄室内(げんしつない)を中心に凝灰岩でつくった石棺の破片や須恵器(すえき)、鉄鏃等の副葬品が多数出土しています。出土した須恵器等の特徴から、古墳がつけられた時期は古墳時代終末期と考えられます。



豊田狐塚古墳の横穴式石室



豊田狐塚古墳出土 銅鏡



豊田狐塚古墳出土 馬具

豊田狐塚古墳(とよだ きつねづかこふん)

豊田町 古墳時代後期

豊田トンド山古墳東方の尾根筋の先端に築かれた直径約20mの円墳で、トンド山古墳と同じく布留遺跡を見下ろす位置にあります。発掘調査で横穴式石室のうち玄室全体と羨道(せんどう)の一部が見つかりました。玄室は長さ約4.4m、奥壁(おくへき)の幅約2.2m、床面からの高さ約2.2mの大きさ。床面には木質(もくしつ)が残る箇所があり、少なくとも3基の木棺(もっかん)が置かれていたようです。玄室の入口付近の須恵器は奥壁付近の須恵器よりやや新しく、奥壁より後の時期に埋葬が行われたことがうかがえます。盗掘を受けているものの銅鏡・馬具・玉類・須恵器など多数の副葬品が出土しています。



島の山古墳 粘土棚上の腕輪形石製品

島の山古墳(しまのやまこふん)

磯城郡川西町唐院 古墳時代中期

長さ約200mの前方後円墳で、寺川と飛鳥川にはさまれた沖積地に位置し、古墳のすぐ北側で両河川は大和川(やまとがわ)へ合流しています。前方部につくられた埋葬施設である粘土棚の中には割竹形(わりたけがた)の木棺が置かれており、棺内に銅鏡と石製合子(せきせいごうす)や首飾り、粘土棚上に各種の腕輪形石製品が副葬されていました。腕輪形石製品は、南海産の貝輪をモデルにつくられたものです。島の山古墳からは、鉄形石(くわがたいし)21点・石釧(いしくしろ)32点・車輪石(しゃりんせき)80点と腕輪形石製品が大量に出土しており、粘土棚上にこれらを置くことで被葬者を護り鎮める意図があったのではないかと考えられます。

天理市北部の古墳 東大寺山古墳群

北部は奈良市との境に接しており、古墳時代には古代豪族(こだいごうぞく)のワニ氏の本拠地が想定されています。現在の和爾町から樺本町にかけての地域になります。周辺は交通の要衝に位置しており、南北交通路は「山の辺の道」の前身が該当すると思われ、王権中枢が存在した奈良盆地東南部と木津川流域を結んでいたと考えられます。一方の東西交通路は、河内から暗峠(くらがりとうげ)を越えてきた道が菩提仙川(ぼだいせんがわ)に沿って東へ行くと、田原一大柳生一笠置と抜け、木津川流域に至ります。

なお、菩提仙川と櫛川にはさまれた北側の丘陵(和爾町)には古墳時代の集落が展開しており、そこには古墳時代前期後半の円墳である上殿古墳が築かれます。小規模な古墳ですが、方形板葺短甲(ほうけいいたかわたじたんこう:よろいの一種)や鉄製柄付手斧(てつせいえつきちょうな:木を削る工具)などの豊富な鉄器が出土し、注目されます。一方、櫛川と高瀬川にはさまれた南側の丘陵(樺本町)には前期後半から中期にかけての大型古墳が数基つづられます。東大寺山古墳、赤土山古墳、和爾下神社古墳(わにしたじんじゃこふん)と継続して前方後円墳がつづられ、ワニ氏の奥津城(おくつき)にふさわしい状況が展開します。ワニ氏はこの地を足がかりにしてヤマト王権に隠然たる影響力を行使したのでしょうか。

上殿古墳(うえどのこふん)

和爾町 古墳時代前期

直径23mと推定されている円墳です。墳丘(ふんきゅう)では、埴輪列や葺石(ふきいし)が確認され、中央の粘土棚(ねんどかく)からは短甲や盾、銅鏃(どうぞく)や鉄ヤリなどの武器・武具が多く見つかりました。特に短甲は、方形の鉄板を革紐で綴じ合わせた類例の少ないものです。また、本来木であるはずの柄の部分鉄でつくった鉄製柄付手斧も副葬されていました。小さい円墳では珍しいこれら遺物の出土は、社会的に上位の階層とのつながりを有していた上殿古墳の被葬者(ひそうしゃ)の性格を反映しているとされます。



上殿古墳出土 方形板葺短甲



赤土山古墳 円筒埴輪列出土状況



赤土山古墳 復元された家形埴輪の配列



赤土山古墳出土 石製品・勾玉・管玉

東大寺山古墳(とうだいじやまこふん)

樺本町 古墳時代前期

標高130mの丘陵上につづられた長さ130mの前方後円墳です。後円部(こうえんぶ)にあった粘土棚から、中国後漢の年号である「中平(ちゅうへい)」から始まる金の文字が刻まれた刀が出土しました。文字が刻まれた中国製の刀が古墳から出土した例はほかになく、極めて貴重な資料です。さらに腕輪形石製品(うでわがたいせきせいひん)のひとつである鉄形石(くわがたいし)が全国で最多の26点以上出土しています。粘土棚の近くからは形象埴輪の破片が見つかり、古墳のまわりには円筒埴輪が並べられていました。



東大寺山古墳 小びれ部の円筒埴輪列



東大寺山古墳出土 円筒埴輪



赤土山古墳 円筒埴輪列出土状況

共同展 天理 山の辺の古墳

主催:天理大学附属天理参考館・奈良県立橿原考古学研究所附属博物館・天理市教育委員会
主 期:2021(令和3)年2月6日(土)~3月15日(月)
後 援:天理市・天理市観光協会・歴史街道推進協議会
協力:天理大学文学部歴史文化学科・文化遺産と大学キャンパス研究会・埋蔵文化財天理教調査団
発行:天理大学附属天理参考館
発行日:2021年2月6日 印刷:株式会社明新社

この解説は天理大学附属天理参考館において開催した「共同展 天理 山の辺の古墳」にあわせて作成した。執筆者は以下の通りである。
青柳泰介(奈良県立橿原考古学研究所附属博物館)
杉山拓己・平井光史・東影悠(奈良県立橿原考古学研究所)
石田大輔(天理市教育委員会)
小田木治太郎(天理大学)
藤原郁代(天理大学附属天理参考館)
地図作成 青木智史(天理大学附属天理参考館)
画像提供 奈良県立橿原考古学研究所・奈良県立橿原考古学研究所附属博物館・天理市教育委員会・埋蔵文化財天理教調査団



空から見た東殿塚古墳・西殿塚古墳



小墓古墳・西乗鞍古墳・東乗鞍古墳の地形起伏図

共同展

天理 山の辺の古墳

2021



榊山古墳の地形起伏図



荒崎古墳の遺物出土状況

天理市南部の古墳 大和(おおやまと)・柳本古墳群

南部は桜井市との境に接しており、現在の佐保之庄町から渋谷町にかけての地域になります。渋谷町のすぐ南の桜井市域には、古墳時代初頭の初期ヤマト王権の王都(おうと)とも考えられる纏向遺跡(まきむくいせき)が所在しています。纏向遺跡内には最初期の大王墓(だいうおうぼ)と想定される前方後円墳である菅墓古墳(長さ約280m)が位置し、その後、大王墓と想定される前方後円墳は西殿塚古墳(長さ約230m)、行燈山古墳(長さ約242m)、渋谷山古墳(長さ約300m)と継続して天理市南部につづられました。これらは、西殿塚古墳を中心とする大和古墳群と行燈山古墳・渋谷山古墳を中心とする柳本古墳群に分かれます。

ともに古墳時代前期を中心とするさまざまな大きさの前方後円墳を中心に構成されていますが、大和古墳群は前方後円墳(ぜんぼうこうほうふん)が6基あること、古墳時代後期の大型前方後円墳である西山塚古墳(長さ約114m)があることが特徴的です。各古墳から出土した埴輪や副葬品は、初期ヤマト王権の成立過程を考える上で重要な資料といえます。

西殿塚古墳(にしとのづかこふん)

萱生町・中山町 古墳時代前期

長さ約230mの前方後円墳で、天理市で3番目に大きい古墳で、大和古墳群では最大です。継体天皇(けいたいてんのう)の後(きさき)の墓として宮内庁(くないちよう)が管理しています。そうすると古墳時代後期ということになりますが、実際にはもっと古い時期の古墳である可能性が高いと考えられています。発掘調査により古墳の外側から大型の円筒埴輪が出土しました。もともとは古墳のまわりに埴輪が並べられていたようです。見つかった円筒埴輪は古墳時代でも初期の埴輪の特徴を示しています。



西殿塚古墳出土 円筒埴輪



東殿塚古墳出土 埴輪



東殿塚古墳の埴輪に描かれた船画

中山大塚古墳(なかやまおおつかこふん)

中山町 古墳時代前期

長さ約130mの前方後円墳です。竪穴式石室の発掘調査が行われ、ほぼ同じ大きさの板石を用いて石室の壁から天井までを構築していることがわかりました。使われているのは羽曳野市春日山の輝石安山岩(きせきあんざんがん)です。副葬品の多くは盗掘により失われていましたが、銅鏡の破片や鉄ヤリ・鉄鏃(てつぞく)などが見つかりました。また、後円部(こうえんぶ)では特殊器台(とくしゅきだい)・特殊器台形埴輪・円筒埴輪と一緒に出土しており、初期の円筒埴輪の使い方を知ることができました。



中山大塚古墳の竪穴式石室全景